

競争，イノベーション，生産性に関する定量的分析 - 市場構造のダイナミクスとパフォーマンスに関する研究 -

元橋一之

東京大学大学院工学系研究科教授

(公正取引委員会競争政策研究センター客員研究員)

船越誠

公正取引委員会競争政策研究センター研究員

【要旨】

平成16年度に筆者らが行った共同研究では、シェア変動指標と市場構造のダイナミクスに影響を与える製品のライフサイクルとの関係の分析が今後の検討課題とされた。これは、シェア変動指標などの市場構造のダイナミクスに関する指標の解釈を行う際には、当該市場を構成する製品について、新たな製品が開発されそれが成熟していくライフサイクルを把握しその影響を考慮することが重要であるためである。本論文ではこの点に焦点を当てて、競争、イノベーション、生産性に関する定量的分析を行っている。なお、市場構造のダイナミクスに関する理論的なフレームワークとして、プロダクトライフサイクルをベースとした理論モデルを用いている。

具体的には、経済産業省における指定統計「工業統計調査」の個票を用いて、1985年から2003年までの詳細な品目分類ベースでシェア変動指標を算出し、それぞれのライフサイクルの状況との関係について定量的な分析を行っている。また、シェア変動指標の特性とその決定要因に関する分析を行い、競争政策においてシェア変動指標を活用するための示唆を得ることを試みている。

これらの分析の結果、ライフサイクルの初期におけるシェア変動指標は安定成長期と比較して大きいことが確認された。衰退期におけるシェア変動指標もやはり安定成長期と比較して、大きくなることが分かった。また、競争政策上問題となる可能性がある市場立ち上がり期において回帰分析の理論値と実測値の格差が大きい品目のリストアップを行った。これらの品目が市場競争において何らかの問題があったかどうかについては、より詳細な分析を行うことが必要であるが、この分析結果は、シェア変動指標を市場競争度指標として用いる際の1つの手法を提示したものとして意義が大きいと考える。

* 本稿の内容は筆者達が所属する組織の見解を表すものではなく、記述中のあり得べき誤りは筆者達のみ責任に帰する。